

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 39

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 平成26年度「岩手の研究『三陸の復興を考える』」

岩手大学では、平成25年度から全学共通教育科目に震災復興に関連する科目「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設しています。

今年度は、平成26年10月2日から平成27年2月12日までの全15回にわたって、震災からの復興について幅広い観点から講義を行いました。

復興庁岩手復興局の職員を講師にお招きした講義では、復興について考えるグループディスカッションを行いました。学生たちは学部も出身地も異なる周りの学生の意見を聞き、自らが被災地に思いを寄せて考えることにより、復興へのアイデアや思いを述べていました。

また、本学三陸復興推進機構被災動物支援班の講義では、動物が人の心を癒やす実例について、実際にアニマルセラピーで使用しているうさぎに触れさせ、その効果を学生たちに体感させました。

講師陣からは、取組内容だけでなく、復興のために何をすればよいか悩んでいる学生に向けたメッセージなど復興に絡めたエールも送られました。

様々な分野で復興推進に携わり、どのような思いを持って取り組んでいるのか知ることにより、改めて自分自身で復興について考え進んでいく機会になりました。



グループディスカッションの様子



うさぎのチモシーとふれあい笑顔

### 岩手大学三陸復興シンポジウム2014

#### 「つながって岩手Part2～春が来た、さあ三陸に出かけよう!～」を開催しました

3月4日、板橋区教育委員会との共催で岩手大学三陸復興シンポジウム2014「つながって岩手Part2～春が来た、さあ三陸に出かけよう!～」を東京都板橋区立文化会館において開催しました。

本シンポジウムは、昨年度は拡大コミュニティがテーマでしたが、2回目となる今回は、観光をテーマに首都圏にお住まいの方々へ昨年度よりも一歩進んだ具体的な被災地への関わり方をご提案し、被災地の交流人口増加を目的に開催しました。

梶原昌五岩手大学教育学部准教授から三陸の自然と文化の魅力についての講演後、三陸沿岸に縁のある企業・団体の越喜来や、GEOT RAIL、岩手県北観光、まるごとりくぜんたかた協議会、三陸鉄道の皆様から、三陸沿岸の「食・観光・体験」の魅力について紹介していただきました。

また、板橋区立富士見地域センターの職員、大野功二さんが平成25年4月から1年間岩手県大船渡市へ派遣されていた時の経験を紹介しました。大野さんは生まれも育ちも東京ですが、大船渡市に滞在していた間は仕事以外でも「自分の田舎ができた」と話す程地元での交流を楽しみ、派遣終了後も大船渡市のお祭りに参加するなど交流を続けています。このままつながりを終わらせたくないとの思いから、今年の

板橋区の富士見まつりでは大船渡市から秋刀魚などの屋台の出店を企画し、板橋区民と大船渡市民との交流の架け橋になっています。

シンポジウムではその他、三陸を身近に感じていただけるよう、物産展や試食コーナー、写真展等を行いました。

時間の経過とともに首都圏での被災地に対する関心の低下が懸念されていますが、今回のシンポジウムには多くの方にご参加いただき、感謝とつながりを改めて実感する場ともなりました。

シンポジウムの中では、春ならではの三陸の楽しみ方についても紹介がありました。皆様も今春、三陸へ出かけてみませんか？



三陸の魅力についてリレートーク



大船渡市に派遣されていた大野さん

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、サケ資源の回復へ向けた取り組みを行っている、水産復興推進部門(三陸水産研究センター)の活動の一例をご紹介します。

## 三陸岩手のサケ類の遺伝分析について

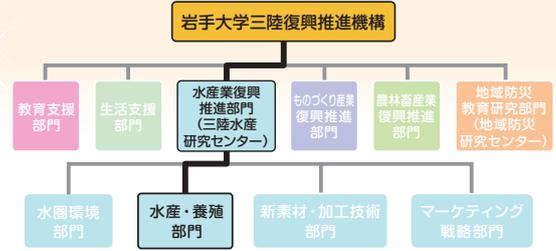
岩手大学三陸復興推進機構 水産復興推進部門 水産・養殖部門  
塚越 英晴 (三陸水産研究センター 特任研究員)

サケ(シロザケ)は三陸岩手の重要な水産資源であり、平成8年に最高漁獲尾数の2,447万尾を記録しました。しかしながら、それを境に漁獲数は減少し続け、近年ではその5分の1以下であることから、サケ資源の回復へ向けた取り組みが求められています。

魚体からはどれも同じに見えるサケですが、遺伝子レベルでは個体ごとに異なっています。そのため、遺伝子を調べる事によって、回帰・遡上するサケの地理的な違いやまとまりの有無、遡上時期による分化、遺伝的多様性の現状、沿岸資源に貢献する系群の有無等の生物特性を明らかにする事ができます。そこで、三陸水産研究センター水産・養殖部門では、本県のサケを中心にサクラマスやカラフトマスを含めたサケ類全般について遺伝分析を進めて生物特性を明らかにし、その成果に基づき資源管理方法や増殖事業の改良・改善に係わる提言をすることを主な目的としています。



久慈市市場における遺伝分析用ヒレ標本の採集風景



これまでの遺伝分析によって、三陸岩手のサケは少なくとも沿岸前期群、沿岸後期群、北上川水系という3つのグループに分けられる事がわかりました。また、同じグループ内の河川間でも遺伝的な特徴が異なっている事も明らかになってきており、中でも北上川水系のサケは支流間で明らかな遺伝的分化がみられます。

これまでほとんど研究されてこなかった北上川水系のサケですが、全体としてみると他の地域と別なグループを形成していることから県沿岸のサケとは生物特性が異なることが示唆されており、今後更に詳しく調べて行く必要があります。北上川の河口は宮城県にありますが、岩手県沿岸を通り北上川に回帰するサケを増やす事ができれば、本県沿岸設置の漁獲量も合わせて増える事が期待されるからです。

このように、三陸岩手のサケ類の遺伝的な特性について、少しずつではありますがその実態が明らかになりつつあります。今後も、三陸岩手のサケ類について遺伝分析を継続して行い、生物特性を詳細に把握して行きたいと思っています。



福島県宇多川ふ化場での採集風景  
岩手県に回帰するサケの特徴を調べるために、県内だけでなく、県外の河川に遡上したサケのヒレ標本も採集しています

# 宮古エクステンションセンターだより

ようやく春らしい日が続くようになってきました。宮古市の桜の開花は、平年ですと4月半ばです。峠道も通りやすくなってきました。是非、春の三陸にお越しください。

それでは宮古の近況をお伝えします。

## ●第3回「宮古市新加工品コンクール」

地域の六次産業化を目指して平成24年度から始まった宮古市新加工品コンクールは、今年度で第3回目を迎えました。宮古市内の農林水産物を対象とし、優れた加工品を作り、一年を通じて流通販売させることで、地域一次産品の付加価値向上、消費拡大に寄与できます。今回は、9事業者が集まり新たな加工品18品目がコンクールに出展されました。各事業者が様々なアイデアで加工品に仕立て上げた原材料は、ウニ、イカ、ワカメ、アナゴ、サケ、コンブ、サバ、サンマ、タコ、黒豆、イサダ、などであり、改めて宮古の一次産品の多様さを感じます。

5名の審査員による審査が行われ、最優秀賞にはチーム漁火 共和水産株式会社の「岩手県産うにいか」が選ばれました。「岩手県産うにいか」は、するめいかのいかソーメンと潮うにを和えたもので、塩のみ味付けが素材のおいしさをより際立たせる商品です。優秀賞には、重茂(おもえ)漁業協同組合の「重茂の早採りわかめ(プレミアム)」と、丸友しまかの「宮古のあなごセット」が選ばれました。



岩手県産うにいか (宮古のうにいか)

## ●宮古港開港400周年記念事業

宮古港が、南部藩港として開港したのは元和元年(1615年)です。慶長

16年(1611年)に発生した慶長大地震大津波の被災状況を巡視に来た南部27代当主南部利直公により、南部藩の外港として定められました。その後、永年にわたり軍港、商港、漁港として利用されてきました。

慶長三陸大津波から藩港としての開港へ、そして400年経った今、東日本大震災大津波から復興へと、宮古港は歴史を紡ぎながら未来に進んでいます。

宮古市は、震災後5年目の平成27年(2015年)を、開港から400周年、そして震災から5年目の節目として、宮古港の軌跡をたどり、東日本大震災の全国からの支援に感謝し、開港記念事業を行います。事業は4月から10月までの期間に、主要な催事を十数件計画しております。4月24日のオープニングセレモニーを皮切りに、みなとオアシスSea級グルメ全国大会や、客船や帆船の寄港などが企画されています。

是非、今年は宮古港記念事業に足をお運びください。

宮古港開港400周年記念事業(予定表)			
港のまつり PORT FEST 400	開会セレモニー	H27.4.24	宮古駅前～市役所
	開会式・復興講演会	H27.4.24	宮古市民文化会館
	みなとオアシスSea級グルメ全国大会	H27.9.19～20	シートピアなあと
	国際交流ジュニアネットクラブ競技会 記念コンサート等	H27.7.31～8.2	リアスハーバー宮古
船の博覧会 SHIP PAGENT 400	客船「ばしふいっくびいなす」寄港	H27.6.11	宮古港藤原ふ頭
	客船「にっぽん丸」寄港	H27.9.14～15	宮古港藤原ふ頭
	帆船寄港 自衛隊艦艇寄港	調整中	調整中
港の歴史 PORT MEMORIAL 400	宮古港歴史展・復興展	H27.4.24～5.6	宮古市民文化会館
	宮古港海戦(全国新撰組サミットin宮古2015)	H27.9.19～20	シートピアなあと
海からの復興 REBIRTH FROM THE SEA	宮古港歴史講演会	H27.4.24	
	宮古港歴史展・復興展	H27.4.24～5.6及び9月	宮古市民文化会館

※個別事業は今後も追加される可能性があります。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

## 連絡先 宮古エクステンションセンター

〒027-8501 岩手県宮古市新川町2-1  
宮古市役所宮古市産業振興部 宮古市産業支援センター内  
TEL : 090-2886-8887 E-mail : miyako@iwate-u.ac.jp

# Information

## 東日本大震災被災学生募金のご報告とお願い

岩手大学では、東日本大震災で被災した学生への支援を目的とした東日本大震災被災学生募金を平成23年3月から実施しています。これまでに、全国の**769名様と52の団体様**から**49,182,295円**(平成27年3月16日現在)が寄せられ、実家が壊れた学生や、家計を支えていたご家族を亡くした学生、福島原子力発電所事故の影響を受けた学生などに対し修学支援金や奨学金を渡すことができました。改めて御礼申し上げます。

岩手大学では今後も被災した学生に対し、経済的支援を行ってまいります。

将来ある学生たちが困難な事態に怯むことなく、果敢に立ち向かっていくことができるよう、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金の方法や詳細については、下記URLをご覧ください。  
<http://www.iwate-u.ac.jp/attention/shienbokin.shtml>

## 募金に関するお問い合わせ

総務広報課 電話：019-621-6006 メール：bokin@iwate-u.ac.jp